

生活状況に関する調査
報告書

令和3年3月

大阪市健康局

目次

I 概要

1	調査目的および方法	1
2	実施期間	1
3	調査対象	1
4	調査項目	3
5	留意点	3
6	ひきこもりの定義	4
(1)	ひきこもりの定義	4
(2)	ひきこもり群(本人票)	4
(3)	ひきこもり群(同居者票)	5

II 結果

1	大阪市におけるひきこもり群の推計	7
2	統計表	11
(1)	単純集計表	11
	• 性別(本人票・同居者票)	11
	• お住まい(本人票・同居者票)	12
	• 年齢(本人票・同居者票)	14
	• 同居者(本人票・同居者票)	15
	• 同居人数(本人票・同居者票)	16
	• 通学状況(本人票・同居者票)	17
	• 卒業・在学中の学校(本人票・同居者票)	18
	• 就労・就学等の状況(本人票・同居者票)	20
	• 働いた経験(本人票)	21
	• 就職又は進学希望(本人票)	22
	• 就職活動(本人票)	23
	• 就職・進学希望をしなかった、または就職活動しなかった主な理由(本人票)	24
	• ふだん自宅でよくしていること(本人票)	25
	• ふだんの外出頻度(本人票・同居者票)	26
	• ひきこもりの状態になった年齢(本人票・同居者票)	27
	• ひきこもりの状態になってからの期間(本人票・同居者票)	28
	• ひきこもりの状態になったきっかけ(本人票・同居者票)	29
	• ひきこもりの状態について、関係機関に相談したいか(本人票)	33

• ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか(本人票)	34
• 相談したくない理由(本人票)	35
• 関係機関に相談した経験(本人票・同居者票)	36
• 相談していない理由(本人票・同居者票)	37
• 相談した機関(本人票・同居者票)	38
• 過去の外出頻度(本人票・同居者票)	40
• 過去にひきこもりの状態になった年齢(本人票・同居者票)	41
• 過去にひきこもりの状態だった期間(本人票・同居者票)	42
• 過去にひきこもりの状態になったきっかけ(本人票・同居者票)	43
• 主生計者(本人票)	47
• 通院・入院経験のある病気(本人票)	48
• 小中学校時代の学校での経験(本人票)	49
• 小中学校時代の家庭での経験(本人票)	50
• 小中学校時代の家庭以外での経験(本人票)	51
• 働いていた頃の職場での経験(本人票)	52
• 自身にあてはまること(本人票)	53
• 不安要素についてあてはまること(本人票)	61
• ふだんの生活態度(本人票)	62
• 家族の状況(本人票)	66
• 困っていることや悩んでいること(本人票)	67
• 悩みを誰かに相談したいか(本人票)	68
• 悩みを相談する相手(本人票)	69
• 知っている機関や事業(本人票・同居者票)	70
• 必要だと思う支援(本人票・同居者票)	71
(2) ひきこもり群/ひきこもり群以外における分布	72
• 性別(本人票・同居者票)	72
• 年齢(本人票・同居者票)	74
• 同居者(本人票・同居者票)	78
• 同居人数(本人票・同居者票)	82
• 通学状況(本人票・同居者票)	86
• 卒業・在学中の学校(本人票・同居者票)	90
• 就労・就学等の状況(本人票・同居者票)	98

• 働いた経験(本人票)	102
• 就職又は進学希望(本人票)	104
• 就職活動(本人票)	105
• 就職・進学希望をしなかった、または就職活動しなかった主な理由(本人票)	106
• ふだん自宅でよくしていること(本人票)	108
• ふだんの外出頻度(本人票・同居者票)	110
• ひきこもりの状態になった年齢(本人票・同居者票)	114
• ひきこもりの状態になってからの期間(本人票・同居者票)	118
• ひきこもりの状態になったきっかけ(本人票・同居者票)	122
• ひきこもりの状態について、関係機関に相談したいか(本人票)	130
• ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか(本人票)	132
• 相談したくない理由(本人票)	134
• 関係機関に相談した経験(本人票・同居者票)	136
• 相談していない理由(本人票・同居者票)	139
• 相談した機関(本人票・同居者票)	141
• 相談した結果(本人票・同居者票)	147
• ひきこもりの状態や将来のことについて不安に思うこと(同居者票)	153
• 過去の外出頻度(本人票・同居者票)	155
• 過去にひきこもりの状態になった年齢(本人票・同居者票)	159
• 過去にひきこもりの状態だった期間(本人票・同居者票)	163
• 過去にひきこもりの状態になったきっかけ(本人票・同居者票)	167
• ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと(本人票・同居者票)	175
• 主生計者(本人票)	179
• 通院・入院経験のある病気(本人票)	181
• 小中学校時代の学校での経験(本人票)	183
• 小中学校時代の家庭での経験(本人票)	185
• 小中学校時代の家庭以外での経験(本人票)	187
• 働いていた頃の職場での経験(本人票)	189
• 自身にあてはまること(本人票)	191
• 不安要素についてあてはまること(本人票)	215
• ふだんの生活態度(本人票)	217
• 家族の状況(本人票)	228
• 困っていることや悩んでいること(本人票)	230
• 悩みを誰かに相談したいか(本人票)	232
• 悩みを相談する相手(本人票)	233

• 知っている機関や事業(本人票・同居者票)	235
• 必要だと思う支援(本人票・同居者票)	239
• その他の必要な支援についての意見(本人票・同居者票)	243
III 調査票	
1 本人票	247
2 同居者票	261
IV 参考	269

I 概要

I 概要

1 調査の目的および方法

大阪市民を対象とする標本調査を行い、ひきこもり状態にある方の割合やひきこもりの危険因子を明らかにし、実効性のある行政施策づくりに役立てる。

調査票の配付は郵送にて行い、調査期間中に1回のみ督促状(はがき)にて協力を促した。調査票紛失した場合に限り、希望される宛先に調査票を再送した。自記式質問紙票への回答を以て調査協力に同意したものとみなされる旨を明記し、同意者にのみ返送(返信用封筒に入れて投函)を依頼した。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による外出自粛要請の影響を避けるため、調査対象期間を平成31年(令和元年)1月1日から同年12月31日までとした。

2 実施期間(調査票配付日～最終回収日)

令和2年12月24日～令和3年1月18日

3 調査対象

令和元年(2019年)12月31日時点で大阪市民であり、

①満15歳～39歳(生年月日が、昭和55年1月1日～平成16年12月31日までの期間内)

②満40歳～64歳(生年月日が、昭和30年1月1日～昭和54年12月31日までの期間内)

住民基本台帳情報を用いて、上記の①および②に該当する大阪市民から等間隔法により無作為に抽出した10,000人の標本を調査対象者とした。

標本抽出の手順:

住民基本台帳情報を用いて、住定日が平成30年1月1日以前、かつ①もしくは②に該当する大阪市民より、①および②の各々の集団において5,000人ずつ、等間隔法による無作為抽出を行った。予め、①および②の2つの年齢階層を設定するため、住所(区)および生年月日については全住民データを用いた。次に、調査票の郵送を主目的として抽出された標本に対して、氏名、住所、および郵便番号データを取得した。

以下に、調査対象として抽出した標本数を年齢5歳階級別(表1-1、表1-2)および居住区(24区)別(表2-1、表2-2)に示す。ただし、年齢不明の者(n=8)は除外した。

表1-1 年齢5歳階級別標本数および有効回答数(子ども・若者)

	母集団(a)	標本数(b)	b/a(%)	回答数	回収率(%)
15～19歳	109,577	901	0.82	281	31.2
20～24歳	157,463	826	0.52	208	25.2
25～29歳	188,032	836	0.44	206	24.6
30～34歳	184,490	1143	0.62	325	28.4
35～39歳	185,849	1294	0.70	427	33.0
	825,411	5000	0.61	1447	28.9

令和元年(2019年)12月末時点

表1-2 年齢5歳階級別標本数および有効回答数(成人)

	母集団(a)	標本数(b)	b/a(%)	回答数	回収率(%)
40～44歳	195,721	1025	0.52	366	35.7
45～49歳	223,420	1237	0.55	449	36.3
50～54歳	194,410	1051	0.54	441	42.0
55～59歳	163,610	904	0.55	387	42.8
60～64歳	138,722	783	0.56	443	56.6
	915,883	5000	0.55	2086	41.7

令和元年(2019年)12月末時点

表2-1 居住区別標本数および有効回答数(子ども・若者)

	母集団(a)	標本数(b)	b/a(%)	本人回答数	回収率(%)	同居者回答数 (参考値)
北区	47,220	277	0.59	55	19.9	39
都島区	31,840	208	0.65	76	36.5	59
福島区	26,864	138	0.51	49	35.5	26
此花区	17,657	130	0.74	35	26.9	36
中央区	40,702	192	0.47	57	29.7	33
西区	39,858	184	0.46	49	26.6	31
港区	23,267	172	0.74	49	28.5	38
大正区	16,166	128	0.79	35	27.3	26
天王寺区	24,381	142	0.58	51	35.9	40
浪速区	31,790	134	0.42	22	16.4	17
西淀川区	28,276	192	0.68	58	30.2	45
淀川区	59,807	349	0.58	113	32.4	82
東淀川区	56,584	329	0.58	82	24.9	73
東成区	26,749	144	0.54	49	34.0	36
生野区	36,849	191	0.52	51	26.7	44
旭区	24,127	142	0.59	47	33.1	34
城東区	48,044	323	0.67	100	31.0	89
鶴見区	31,663	234	0.74	70	29.9	61
阿倍野区	30,387	190	0.63	66	34.7	58
住之江区	30,492	214	0.70	67	31.3	49
住吉区	41,626	265	0.64	71	26.8	65
東住吉区	35,169	236	0.67	74	31.4	53
平野区	52,055	356	0.68	88	24.7	78
西成区	23,838	130	0.55	28	21.5	26
	825,411	5000	0.61	1442	28.8	1138

※居住区不明の者(n=5)は除外した。

令和元年(2019年)12月末時点

表2-2 居住区別標本数および有効回答数(成人)

	母集団(a)	標本数(b)	b/a(%)	回答数	回収率(%)	同居者回答数 (参考値)
北区	45,671	219	0.48	75	34.2	46
都島区	35,868	198	0.55	106	53.5	79
福島区	25,670	126	0.49	55	43.7	42
此花区	22,795	143	0.63	63	44.1	34
中央区	35,411	162	0.46	67	41.4	33
西区	33,389	196	0.59	75	38.3	51
港区	27,023	148	0.55	62	41.9	47
大正区	21,757	113	0.52	43	38.1	31
天王寺区	27,458	139	0.51	61	43.9	45
浪速区	19,607	126	0.64	53	42.1	21
西淀川区	33,423	190	0.57	81	42.6	56
淀川区	59,536	340	0.57	132	38.8	89
東淀川区	55,967	304	0.54	130	42.8	82
東成区	27,416	159	0.58	71	44.7	45
生野区	40,494	180	0.44	75	41.7	49
旭区	29,782	158	0.53	71	44.9	50
城東区	58,782	323	0.55	141	43.7	97
鶴見区	39,144	210	0.54	82	39.0	65
阿倍野区	38,152	230	0.60	112	48.7	89
住之江区	41,321	207	0.50	80	38.6	55
住吉区	51,827	304	0.59	134	44.1	82
東住吉区	43,977	273	0.62	114	41.8	80
平野区	67,041	388	0.58	138	35.6	94
西成区	34,372	164	0.48	63	38.4	35
	915,883	5000	0.55	2084	41.7	1397

※居住区不明の者(n=2)は除外した。

令和元年(2019年)12月末時点

【注】

有効回答数は、集計の結果より得たものである。なお、本人用のみ回収率算出に有効であるため、同居者用の有効回答数は参考値として計上する。

4 調査項目

- (本人票)
- (1) 基本的属性について(Q1～Q5)
 - (2) 学校生活に関すること(Q6～Q7)
 - (3) 就労・就学等に関すること(Q8～Q12)
 - (4) 普段の活動に関すること(Q13)
 - (5) ひきこもりの状態に関すること(Q14～Q17)
 - (6) 相談機関に関すること(Q18～Q23)
 - (7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること(Q24～Q28)
 - (8) 主生計者について(Q29)
 - (9) これまでの経験(Q30～Q34)
 - (10) 自分についてあてはまること(Q35～37)
 - (11) 家族の状況について(Q38)
 - (12) 悩み事の相談に関すること(Q39～Q41)
 - (13) 知っている機関や事業(Q42)
 - (14) 支援のあり方についての意見(Q43)

- (同居者票)
- (1) 対象者の基本的属性について(Q1～Q5)
 - (2) 対象者の学校生活に関すること(Q6～Q7)
 - (3) 対象者の就労・就学等に関すること(Q8)
 - (4) 対象者のひきこもりの状態に関すること(Q9～Q12)
 - (5) 相談機関に関すること(Q13～Q18)
 - (6) 対象者の状態や将来の不安(Q19)
 - (7) 対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること(Q20～Q24)
 - (8) 知っている機関や事業(Q25)
 - (9) 対象者の支援のあり方についての意見(Q26)

5 留意点

nは、質問に対する回答数である。％は、回答数に対する割合としている。

結果数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがある。

なお、該当項目以外を回答した者も集計に含めた。

自由記載に関しては、一部抜粋(ひきこもり群のみ)の回答もある。

6 ひきこもりの定義

(1) ひきこもりの定義

本調査では、内閣府政策統括官により実施された調査の報告書(平成28年および31年)に基づき、以下のように定めた。

本人の妊娠・出産を含む身体的疾病等、もしくは同居家族の介護・看護等の理由により、常時自宅にいたる必要がある場合を除き、外出頻度が極めて低下した状態^(a)が6ヵ月以上持続していた者

※^(a)自室からほとんど出ない、家から出ない、近所のコンビニなどに出かけるがほとんど家にいる、自分の趣味に関する用事の時だけ出かけるがほとんど家にいる状態。

(2) ひきこもり群(本人票)

本調査では、本人票におけるひきこもり群を、

「Q14 あなたは2019年の1年間、ふだん、どのくらい外出していましたか。」について、次の5～8のいずれかに当てはまる者、もしくは5～8の中で複数回答をした者(H:Hikikomori)

- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7 自室からは出るが、家からは出ない
- 8 自室からほとんど出ない

* 1～4に当てはまる者もしくは1～4の中で複数回答した者(NH:Not Hikikomori)、1～4と5～8の間で複数回答した者および無回答の者は除外

かつ

「Q16 あなたがそのような状態になってどのくらい経っていましたか。」について、6ヵ月以上と回答した者

* 6ヵ月未満と回答した者および無回答の者は除外

であって、次の①～③のいずれにも当てはまらない者とした。

- ① 「Q8 あなたは働いていましたか。」について、次のいずれかに回答をした者
- 10 専業主婦・主夫
 - 12 家事手伝いをしていた

- ② 「Q13 あなたが2019年の1年間で、ふだんご自宅にいるときによくしていたことすべてに○をつけてください。」について、次のいずれかに回答をした者
- 7 仕事をする
 - 8 家事・育児をする
 - 9 介護・看護をする

- ③ 「Q17 あなたがそのような状態になったきっかけは何ですか。」について、次のいずれかに回答をした者
- 7 病気(病名:)を選択し、身体疾患の病名を記入した者
 - 8 妊娠した
 - 9 介護、看護を担うことになった
 - 11 その他()を選択し、()に身体疾患、コロナ関連、妊娠・出産、介護等に関する内容を記入した者
- *ただし、1～6および10にも当てはまると回答した者は除外

(3)ひきこもり群(同居者票)

本調査では、同居者票におけるひきこもり群を、

「Q 9ご本人は、2019年の1年間、ふだん、どのくらい外出していましたか。」について、次の5～8のいずれかに当てはまる者、もしくは5～8の中で複数回答をした者 (H:Hikikomori)

- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7 自室からは出るが、家からは出ない
- 8 自室からほとんど出ない

*1～4に当てはまる者もしくは1～4の中で複数回答した者(NH:Not Hikikomori)、1～4と5～8の間で複数回答した者および無回答の者は除外

かつ

「Q11 あなたがそのような状態になってどのくらい経っていましたか。」について、6か月以上と回答をした者

*6ヶ月未満と回答した者および無回答の者は除外

であって、次の①、②のいずれにも当てはまらない者とした。

① 「Q8 ご本人の2019年の就労・就学等の状況についてお答えください。」について、次のいずれかに回答をした者

10 専業主婦・主夫

12 家事手伝いをしていた

② 「Q12 ご本人がそのような状態になったきっかけは何ですか。」について、次のいずれかに回答をした者

7 病気(病名:)を選択し、身体疾患の病名を記入した者

8 妊娠した

9 介護、看護を担うことになった

11 その他()を選択し、()に身体疾患、コロナ関連、妊娠・出産、介護等に関する内容を記入した者

*1～4に当てはまる者もしくは1～4の中で複数回答した者、1～4と5～8の間で複数回答した者および無回答の者は除外

II 結果

1 大阪市におけるひきこもり群の推計

本調査による大阪市民におけるひきこもり群に該当する方の人数は、子ども・若者(満15歳～満39歳)で30人(2.07%)、成人(満40歳～満64歳)で55人(2.64%)であった(次頁図1参照)。

上記により、調査時点(令和元年12月末)においてひきこもり群に該当する方は、以下のとおりと推計された。

<p style="text-align: center;">子ども・若者(満15歳～満39歳):約17,000人 成人 (満40歳～満64歳):約24,000人</p>

【参考】

推計人数の算出方法

調査時点(令和元年12月末)における住民基本台帳人口×有効回答数(1頁の表1-1、表1-2参照)に占める割合

子ども・若者(満15歳～満39歳): $825,411人 \times 2.07\% = 約17,086人$

成人 (満40歳～満64歳): $915,883人 \times 2.64\% = 約24,179人$

図1 「本人票のひきこもり群抽出の流れ(フロー図)」

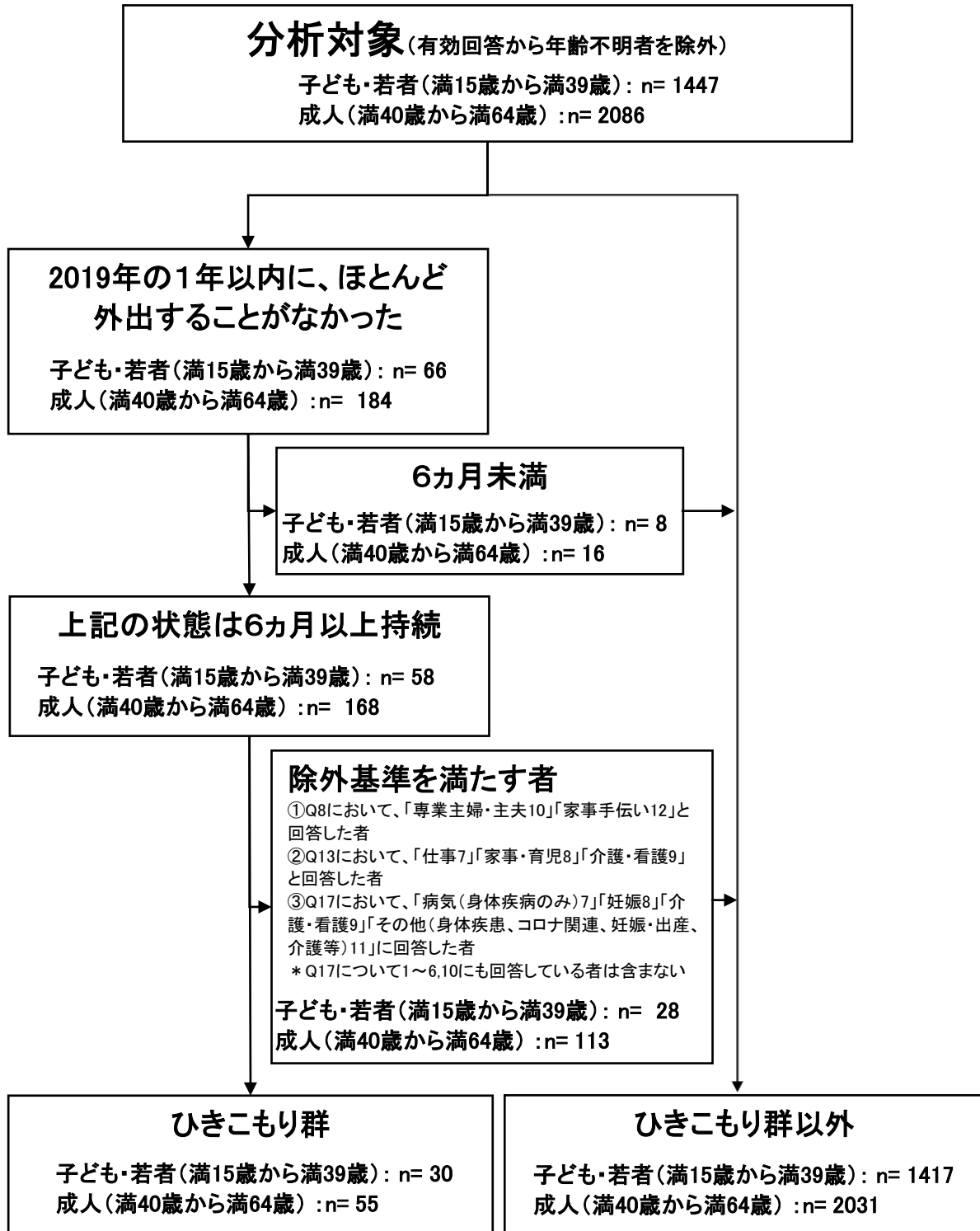


図2 同居者票のひきこもり群抽出の流れ(フロー図)

